

# 市民の安全と適切な予算執行につながる庁内連携型施設保全システム（鳥取県鳥取市）

## 取組概要

- 「建物点検マニュアル作成」や「施設点検の実地研修」などによって**施設担当者の現場力を高め**つつ、日常的な一次点検を始めました。不具合がある場合には、技術職員による詳細な二次点検や**職員自ら『ドローン』を飛行させて高所点検**するなど、自前で不具合情報を収集します。
- 不具合情報は一元化**し、『技術職員による客観的な劣化度・緊急度』と、『施設マネジメントの視点での施設重要度』の**2つの指標で優先度判定**を行い、この判定結果に基づいて施設修繕の予算を配分することで、優先すべき修繕が実施でき、**施設の安全確保と効率的な予算執行が実現**できます。

## 取組の効果

- これまで予算要求は、施設所管課作成の資料がメインであり、担当者のプレゼン能力で予算配当の可否が決まる面もありましたが、情報を一元化して、客観的な物差しで評価（優先度判定）することで、**優先度や緊急性が低い修繕への予算配当や中途半端な業務発注を減らす**ことに繋がりました。
- 事前に優先度が把握できるので、施設所管課は**不要な予算要求資料を作成する手間が省かれる**ほか、財政担当も**予算査定の作業が簡素化**されました。
- 点検のために足場を設営するには、不具合が起きていることが前提でしたが、ドローンの導入によって**不具合（被害）が拡大する前に発見・対応**することができるため、全体として修繕費を圧縮することが期待できます。
- 職員自らがドローンを飛行させることで、点検のレベルを格段の向上させたほか、より迅速で安価な点検を実現**しています。 ※これまでの50施設以上を点検しており、足場の設営費用を8万円／回と想定した場合、**350万円以上の費用削減効果**となっています。（ドローン導入費用：約30万円）

## 創意・工夫した点

- 施設点検だけでなく、維持管理やライフサイクルコストなど、**ファシリティマネジメントについての研修を実施し、職員の意識改革・育成**に繋がっています。
- 点検と予算配分を連動させることで、**点検実施率を高め、不具合情報を一元化**することができました。
- 職員自らが訓練を受け、ドローンを飛行させることで、迅速かつ安価な高所点検が実現したほか、施設点検への関心を高め**ました。

## 他団体へのアドバイス

- 施設点検の結果が予算に反映されるなど、システム全体を施設担当者が理解しないと、事前協議書が提出されないなど、前に進みません。
- 担当者に施設での事故は施設所管課が責任を負うことを知ってもらうことも重要です。
- 優先度判定を行う場合は、客観的に審査していく必要があり、事前に評価の物差しを確定して共有することが重要です。

人口 191,221人(6月末)

担当 財産経営課



施設点検の実地研修



職員自らドローンを飛行させ、これまでできなかった点検が安価かつ迅速に実施可能に！



他用途の活用も検討中！

ドローンによる建物点検

施設重要度	高	E	D	A
	中	F	E	B
	低	G	F	C
		低	中	高
劣化度・緊急度				
優先度判定表				